



SANSHIN GROUP

Monthly Report on the ESG

Dec.2019

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report (品質)
4. ESG Report (環境)
5. ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

今月、スペインの首都マドリードでCOP25（気候変動枠組み条約第25回締約国会議）が開かれた。開幕に際し事務総長であるアントニオ・グテレス氏は次のように述べた。「人類は文明を脅かす気候危機に直面し、希望か降伏のいずれかを選択しなければならない」と。COP25をめぐっては、国際的な環境NGOが地球温暖化対策に消極的な国に贈る「化石賞」に日本を選んだ。数々の兆候が現実なものとなり襲い掛かってきているなか、日本は意識と行動のギャップを埋め「希望」を選択できるだろうか。

サンシン電気株式会社 取締役
加来 孝

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

今年も既にインフルエンザの流行していますが、これからピークになると思われます。感染予防に手洗いやうがい、マスク着用の習慣をつけ人に感染しないようにしたいです。(H.O.)

SANSHIN Hong Kong

Christmas & New Years is coming, most of the shop in HK will prepare a lots of decoration. Unfortunately, Hong Kong do not have recycle system. After the festival those decoration just a rubbish and goto landfill. When HK will have recycle system?? (S.M.)

CSI

セブは今も建設ラッシュで都市計画が行われています。ニューブリッジに隣接する道路拡張工事が始まっております。立体交差点にするともいわれています。渋滞が解消されることを期待しています。(K.S.)

SANSHINWest

最近、問題となっているプラスチックゴミ問題。海へと流れたプラスチックは、生態系への影響も懸念されています。私は買い物時はエコバックを持参、急な買い物時にも備えて車にもエコバックを常備しています。最近はレジ袋の有料化も進んでいます。皆さんもエコバック持参を検討してみてはいかがでしょうか(T.S.)

SHINKOWA

12月を迎えて今年を顧みると、何と言っても9月の台風、10月の豪雨です。台風の時には約4日間停電があり、電気の無い生活を体験しました。また、豪雨は3時間であったものの、工場近隣の道路が冠水し、田畑が溜池のようになり水害の恐怖を初めて感じました。今後このような自然災害の被害が無ければと思います。災害時の備蓄品も忘れずに用意しましょう。(M.N.)

SC2

年の瀬に骨折、一泊入院しました(ToT) 入ってびっくり、病院中が地獄の柔軟剤臭！介助してくれる看護師さんの臭いで吐いてしまうほど。病院こそ無臭であるべきだと思いますが...。(M.I.)

ESG Report (品質)

TOPICS

QOLを上げるための第一歩

QOLを上げるには、何が良い習慣・悪い習慣なのか。この定義は非常に難しいものです。

ある人にとってお酒はストレス解消のための良い習慣ですし、飲みすぎて2日酔いに悩む人にとっては悪い習慣にもなり得るからです。また、スマホも同じで、新しい情報を得たり、SNSでコミュニケーションをとることで充足感を感じられる面では良い習慣と言えますが、寝室でスマホをいじっていると夜更かしして慢性的な寝不足になるため、制限したいと思っている人にとっては悪い習慣となります。

良い習慣・悪い習慣を決める基準とは？

「それは自分を充電してくれる習慣か、放電させる習慣か？」を見極めることです。

自分を充電してくれる習慣とは、「エネルギーアップ」につながるものです。その行動が終わった後、自分が精神的に満たされた感覚を得られる習慣です。

いっぽう、放電させる習慣とは、「エネルギーダウン」につながるものです。自分のエネルギーが奪われていく感覚があるのではないのでしょうか？

つまり、自分の精神的なエネルギーがアップする習慣を増やして、エネルギーダウンする習慣を減らすことが自分にとって取り組むべき習慣化のテーマです。

放電・充電となる習慣はどのようなものでしょうか？

放電となる習慣とは、遅寝・遅起き だらだらとTVを見る スマホ・ネットサーフィン・動画サイトの見すぎ 食べすぎ、たばこ・お酒の飲みすぎ、だらだらと休日を過ごす 無駄遣い・衝動買い 部屋が片付いていない など

充電となる習慣とは、早寝・早起き、十分な睡眠 わくわくする行動（趣味など） アウトプット（ブログ・日記など） 勉強・読書 時間を守る・5分前行動をする 運動する（ジム・ランニング・筋トレなど） 片付け（部屋・資料の整理など） など

さて、放電となる習慣をやめて、充電となる習慣を増やすことでQOLが上げてみましょう。

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

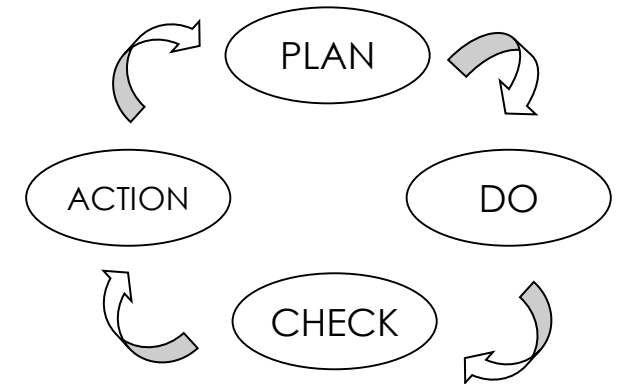
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



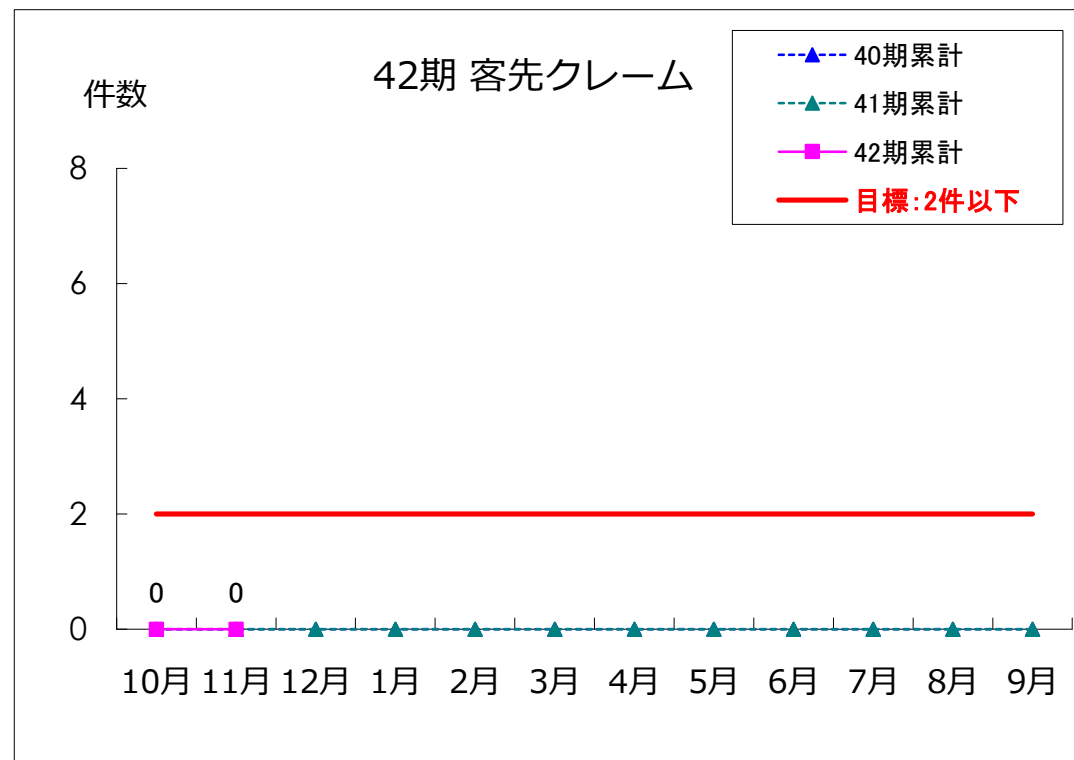
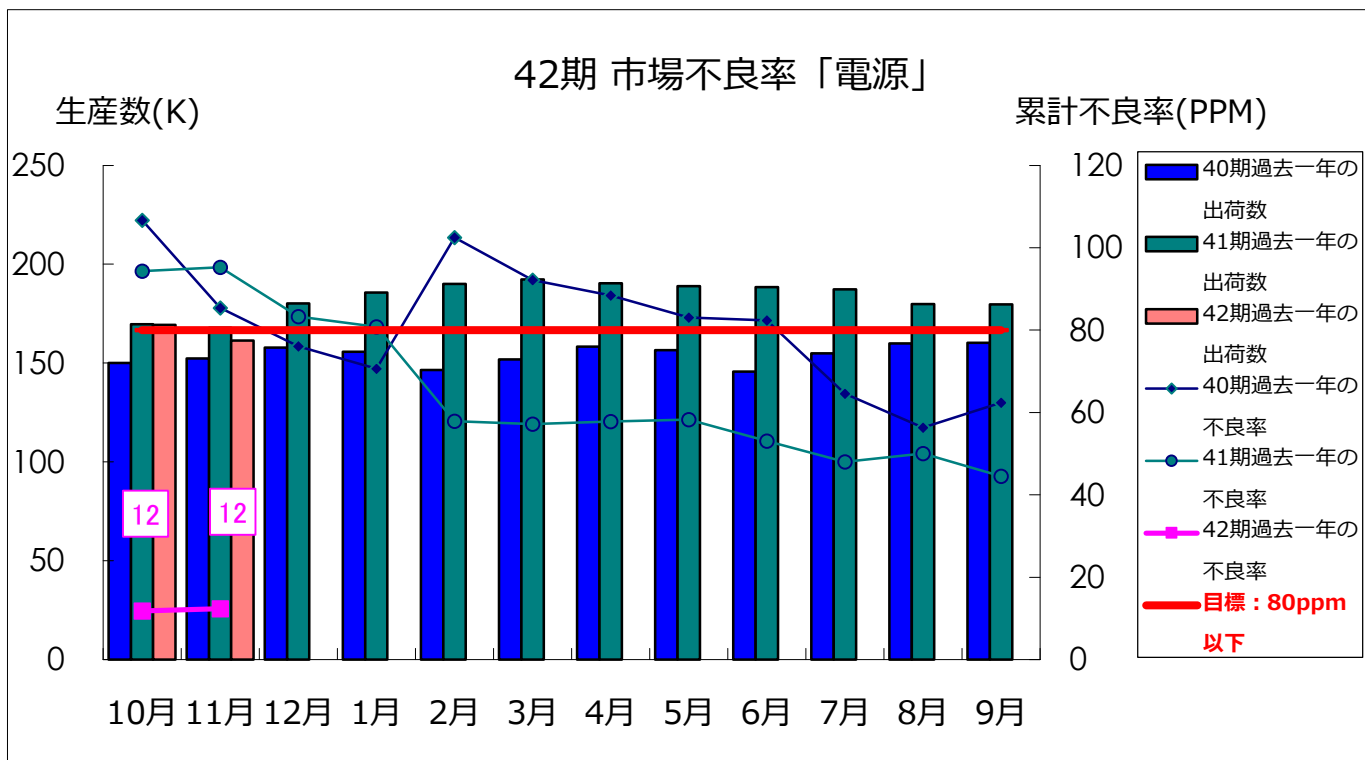
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入不良率 目標 80ppm

42期の累計不良率は、12ppm です。
 市場不良累計(過去1年分) : 2件 客先クレーム : 0件



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

□ WWFの「企業の温暖化対策ランキング」

☑ 業界別に見る日本の企業の温暖化防止

猛暑、豪雨、台風の強大化、温暖化と共に深刻化するとみられる異常気象...

2014年4月、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が発表した第5次評価報告書は、さらなる温暖化の進行と深刻な影響の予測を示しました。しかし日本では、京都議定書の第2約束期間には目標を掲げず、政府レベルの温暖化対策は停滞しています。その中で、日本の企業はどのような姿勢で、温暖化防止の取り組みを目指しているのでしょうか。

WWFジャパンは2014年、各企業の取り組みレベルを同一の指標を用いて評価する「企業の温暖化対策ランキング」プロジェクトを開始しました。これは、環境報告書やCSR報告書などで企業が公開している情報に基づき、その企業の温暖化対策の実効性を評価する試みです。

☑ 運用段階に入るパリ協定

進行する地球温暖化の脅威と向き合う国際社会。地球温暖化の抑制に世界が取り組むパリ協定は2015年に採択されました。

パリ協定のもと、国際社会は平均気温の上昇を2度未満、できれば1.5度に抑える事を約束しています。そのために、今世紀後半には温室効果ガスの排出をゼロにすることが求められているため、どのようなルールが採択されるのか、成立以来、注目を集めていました。

結果として、2018年の12月にポーランド・カトヴィツェで開催された国連会議(COP24)でルールブック（実施指針）は無事に採択され、国際社会は、温暖化の抑制に向けて、具体的に動き始めることになりました。

パリ協定の実施にあたっては、各国政府だけでなく、NGOや自治体、企業などのいわゆる「非国家アクター」がそれぞれの役割を担って、温室効果ガスの排出抑制に本腰を入れる必要があります。

近年国際社会から特に注目を集めている、企業による意欲的な取り組みの一つに、「SBT」（Science Based Targets）があります。

パリ協定と整合した科学的な削減目標の策定を呼びかける国際イニシアティブSBT。各国の企業が続々と取り組みを進めていますが、日本企業の参加も目立ちます。2019年1月10日時点で、参加企業は67社となり、日本企業は全体の13%を占めるまでになっています。

そうした日本企業の温暖化対策への取り組みを評価し、促進させるWWFジャパンによる「企業の温暖化対策ランキング」プロジェクトが、2019年1月18日、最新の報告書を発表しました。

今月のTOPICS

☑ 機械および精密機器業界の上位企業は？

調査対象は「機械」および「精密機器」に属する計39社。「機械」業種の第1位は、ナブテスコ（80.5点）で、日立建機（74.9点）、ダイキン工業（74.7点）、クボタ（71.9点）、ダイフク（70.6点）と続きました（以上、業種内で偏差値60以上）。また、「精密機器」業種の第1位は、ニコン（73.4点）でした（同）。両業種ともに「目標・実績」に関して課題が見られたものの、「情報開示」は優れており、特にライフサイクル全体で排出量を開示している企業の割合が50%に達しました。

本業種は組立産業という性質が強い業種柄、サプライチェーンに対する意識が強く、多くの企業が自社製品の省エネ化による排出削減に取り組んでいました。また、サプライチェーンにおけるステークホルダー企業が持つ長期目標の重要性を理解し、自らも長期ビジョン・目標を掲げるという好循環が見られました。本ランキングで高評価を得た企業は、実効性の高い取り組みを進めており、投資家からも優良なESG投資対象と見られている事も分かりました。

評価の結果、「機械」業種で、第1位となったナブテスコは、「情報開示」の評点（50点満点）において45.8点と高い点数を獲得。また、「2050年に温室効果ガス排出量を総量で80%削減」という野心的な長期目標を掲げており、「目標・実績」（50点満点）でも、34.6点と比較的高い点数を得ました。同社は先述のSBTに取り組んでおり、既にSBTi（Science Based Targets initiative）側からの承認も得ているなど、その長期的ビジョンはパリ協定と整合したものとなっています。

また、温室効果ガスの排出削減に関して、総量および原単位の両方で削減目標を掲げており、「目標・実績」における点数を伸ばすこととなりました。

「情報開示」は、Scope 1,2（自社の事業範囲）にくわえ、Scope 3（自社の事業範囲の上流および下流）の15のカテゴリーについても排出量の把握・開示を行なっていること、さらに、第三者検証を受けることで、温室効果ガスの排出量データの信頼性を高めていることなどが、点数を大きく押し上げました。ただし、「再生可能エネルギー導入目標」が設定されておらず、本業種の多くの企業と同じく、この点が課題となっています。

2位の日立建機は、親会社の日立製作所が掲げる「日立環境イノベーション2050」を自社の目標に落とし込んだ中期計画を策定しており、長期目標において満点を獲得しています。関連企業との足並みをそろえた取り組みが、パリ協定と整合した目標設定につながった好事例となっています。

また、自社の排出削減について定量的な目標を設定した上で、Scope 3および社会からの削減貢献についても目標管理をしている企業は、本業種において2社ありましたが、その中に同社がはっています（もう1社は小松製作所）。

「精密機器」業種では、業界内の偏差値が60以上となったのはニコン1社にとどまりましたが、同社は「情報開示」において、これまでのWWFジャパンによる温暖化ランキングの全9回を通じて、満点（50点）を獲得する2社目となりました。

今月のTOPICS

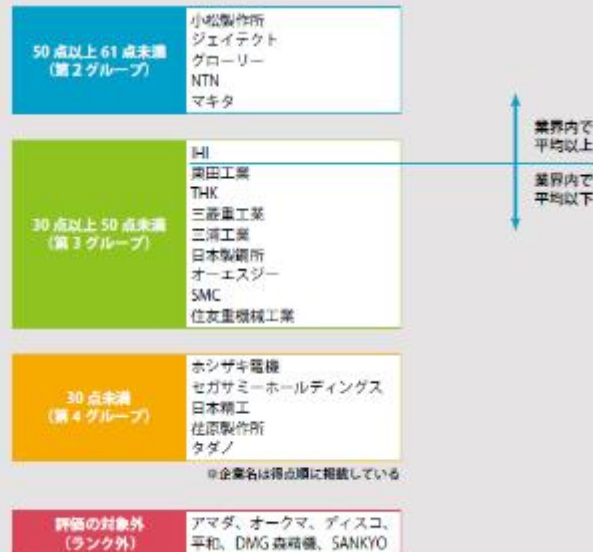
■ 機械

評価対象企業：合計 24 社 ●平均点：45.5 点 ●最高点：80.5 点 ●最低点：12.5 点

※ 上位 5 社は偏差値 60 以上に相当

順位	総合得点 (100 点満点)	企業	目標・実績 (50 点満点)	情報開示 (50 点満点)
第 1 位	80.5	ナブテスコ	34.6	45.8
第 2 位	74.9	日立建機	34.6	40.3
第 3 位	74.7	ダイキン工業	34.4	40.3
第 4 位	71.9	クボタ	26.0	45.8
第 5 位	70.6	ダイフク	28.9	41.7

*四捨五入の関係で、差し合わせた際に小数点以下に誤差が生じる場合がある



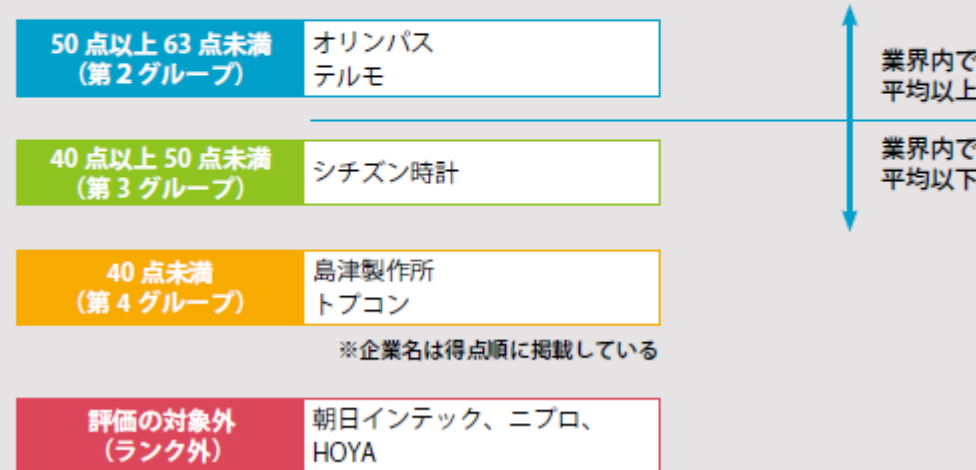
■ 精密機器

評価対象企業：合計 6 社 ●平均点：48.0 点 ●最高点：73.4 点 ●最低点：25.7 点

※ 上位は偏差値 60 以上に相当

順位	総合得点 (100 点満点)	企業	目標・実績 (50 点満点)	情報開示 (50 点満点)
第 1 位	73.4	ニコン	23.4	50.0

*四捨五入の関係で、差し合わせた際に小数点以下に誤差が生じる場合がある



今月のTOPICS

☐ 機械および精密機器業界の全体的傾向は？

業界全体としては、総合得点の平均点は、機械が45.5点、精密機器48.0点と、過去に実施した8業種と比較して、比較的高めの水準となりました。

発行年や調査時期が異なるため、一概には比較ができませんが、これまでの平均点は、電気機器48.7点、輸送用機器46.7点、食料品44.8点、小売業・卸売業34.1点、金融・保険業34.9点、建設業・不動産業47.2点、医薬品54.4点、運輸業45.8点でした。

全体的に「情報開示」の取り組みレベルが高く、Scope 1,2にくわえてScope 3の15のカテゴリーを意識した開示を行っている企業が、過去の調査業種とくらべて非常に多くありました。

ただし、その情報開示とは対照的に、「目標・実績」に関しては点数が伸び悩み、特に長期的ビジョンや再生可能エネルギー目標の指標においては、取り組みレベルが低いことが分かりました。

見てきたとおり、SBTに参加し、すでに承認を得ているナブテスコは今回、ほかの項目でも高いスコアを記録しています。

本業種においてSBTに取り組んでいる企業は、SBT承認に向けた環境省による支援事業への参加も含めれば、ほかにグローリー、小松製作所、シチズン時計、ジェイテクト、ダイキン工業、ダイフク、ニコン、日立建機があげられます。この中で、既に承認を得ているのは小松製作所（総合得点で『機械』第6位）です。これらの企業は、長期目標以外でもある程度得点を高めている傾向が見られます。

今月のTOPICS

☐ 機械および精密機器業界の全体的傾向は？

パリ協定の目指す脱炭素社会のためには、SBTへの参加などによって、実効性の高い長期ビジョンを策定することが重要になります。また、先述の通り、再生可能エネルギーの導入目標を掲げているのは機械、精密機器の両業種を通じてダイキン工業のみとなっており、この点で本業種は大きく遅れをとっている状態です。

企業は徹底した省エネ活動にくわえて、再生可能エネルギーを中心としたエネルギーの調達へと早急にシフトしていくことが求められますが、現在、再エネの活用を、温暖化対策の新たな柱に据えることができる環境が整ってきています。

2012年にスタートした固定価格買取制度（FIT）を契機に、企業にとっても再エネに対する設備投資をしやすい環境が整い、また電力システム改革が進むことによって再エネ調達の選択肢も増えつつあります。

なお、今回、「目標・実績」の評価点が伸びなかった企業についてみると、長期ビジョンと再生可能エネルギー目標の2つの項目がいずれも0点となっています。

ランキングで下位に位置する企業については、今後、実効性のある温暖化対策を進めるために、情報開示を手始めに、自社のCO2排出量削減、Scope3での排出削減を視野に入れながら、長期ビジョンと再エネの2項目においても改善を図っていくことが期待されます。調査対象は「機械」および「精密機器」に属する計39社。「機械」業種の第1位は、ナブテスコ（80.5点）で、日立建機（74.9点）、ダイキン工業（74.7点）、クボタ（71.9点）、ダイフク（70.6点）と続きました（以上、業種内で偏差値60以上）。また、「精密機器」業種の第1位は、ニコン（73.4点）でした（同）。両業種ともに「目標・実績」に関して課題が見られたものの、「情報開示」は優れており、特にライフサイクル全体で排出量を開示している企業の割合が50%に達しました。

本業種は組立産業という性質が強い業種柄、サプライチェーンに対する意識が強く、多くの企業が自社製品の省エネ化による排出削減に取り組んでいました。また、サプライチェーンにおけるステークホルダー企業が持つ長期目標の重要性を理解し、自らも長期ビジョン・目標を掲げるという好循環が見られました。本ランキングで高評価を得た企業は、実効性の高い取り組みを進めており、投資家からも優良なESG投資対象と見られている事も分かりました。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



活動報告

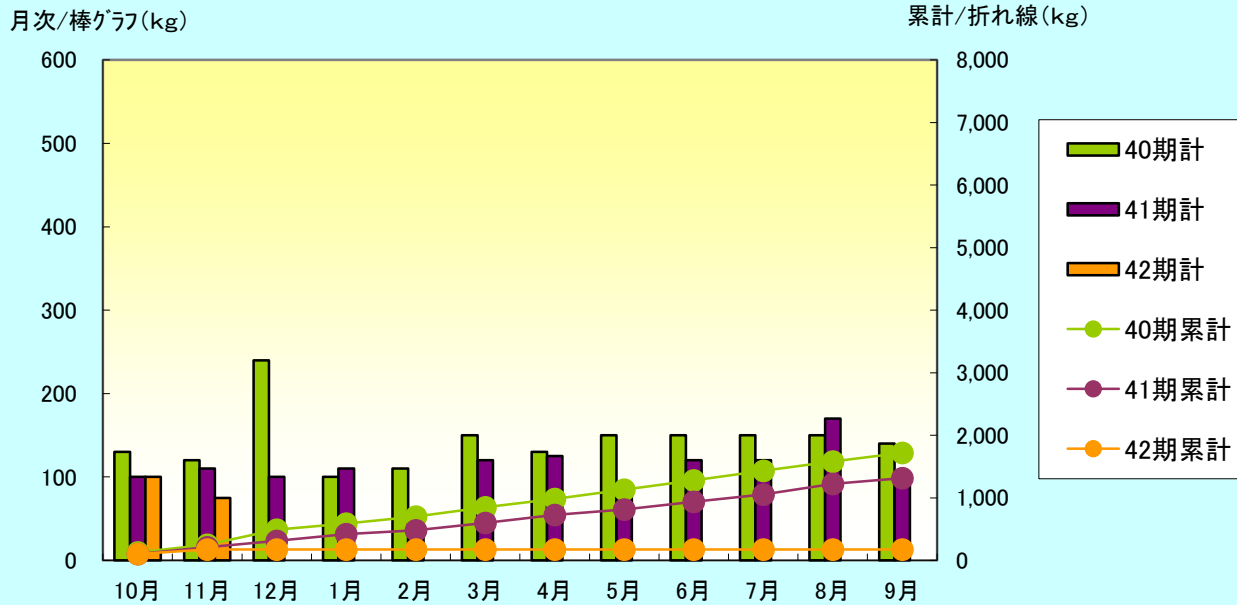
- ①環境への取り組み
- ②廃棄物排出量
- ③コピー用紙使用量
- ④電力使用量
- ⑤切手・ペットボトルキャップ回収

環境への取り組み

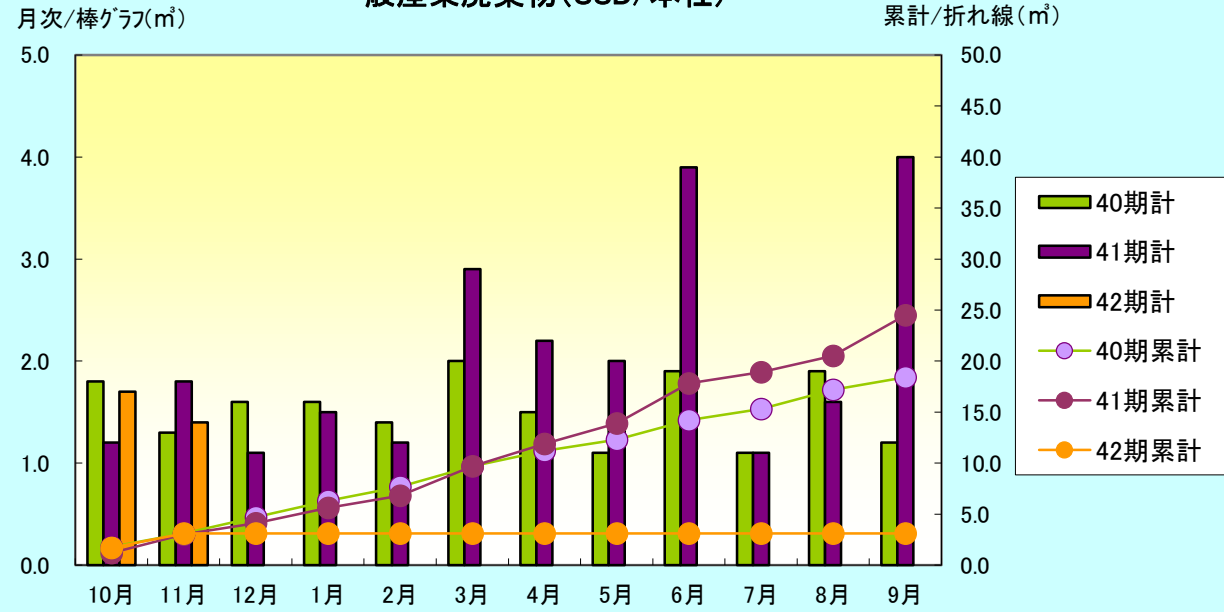
- ▶ 災害地域への義援金や植樹活動支援金の募金活動
- ▶ ソーラーシステム導入による再生エネルギーの活用（SSD headquarters & SHINTO）
- ▶ 年に一度、植林を実施（CSI）
- ▶ 省エネルギー機器の開発・販売を通じた環境への貢献
- ▶ ROHS対応部品の使用促進による環境負荷低減
- ▶ ペットボトルキャップ・使用済み切手の回収
- ▶ ウェアラブルカメラを導入し、5S活動を徹底（CSI）



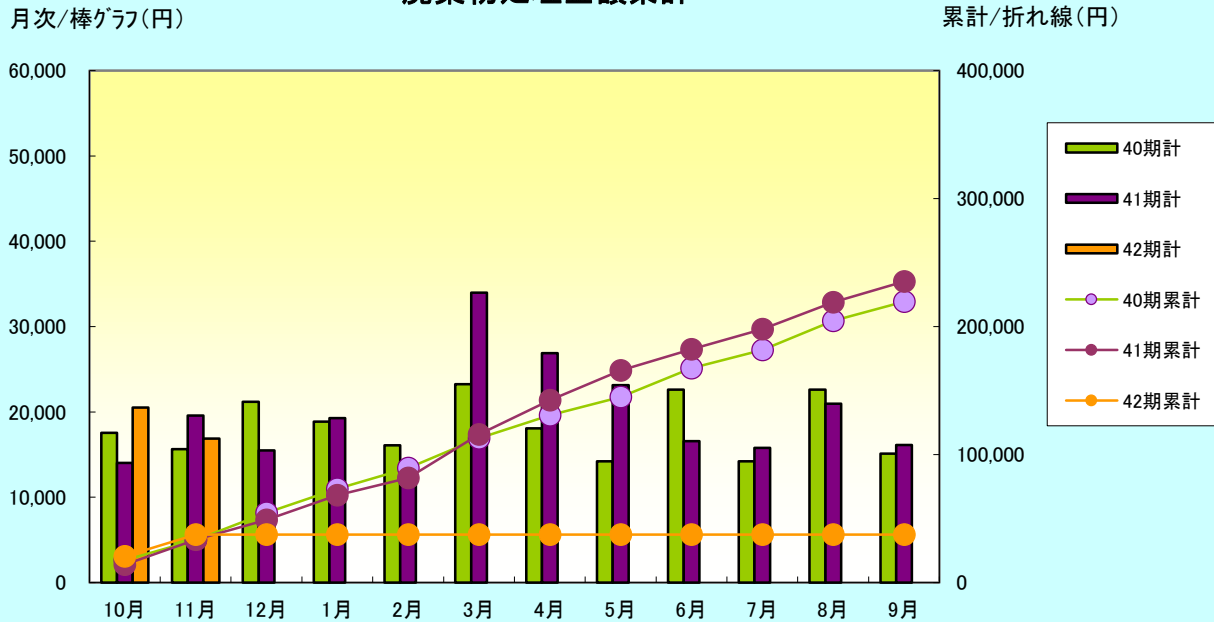
一般廃棄物(SSD/本社)



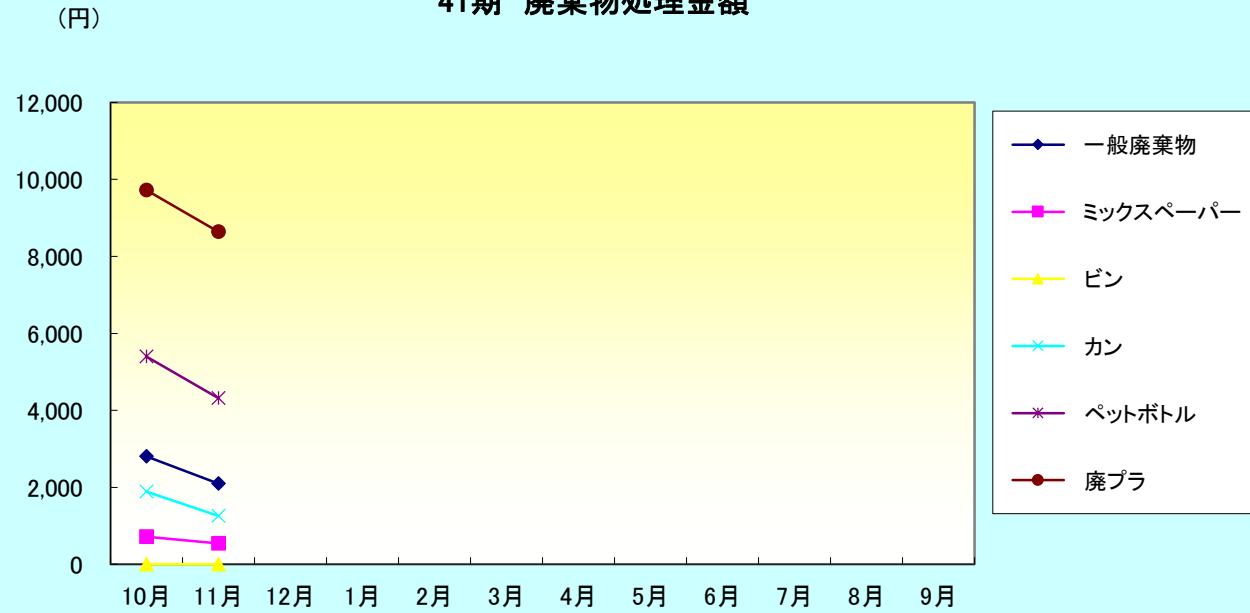
一般産業廃棄物(SSD/本社)



廃棄物処理金額累計



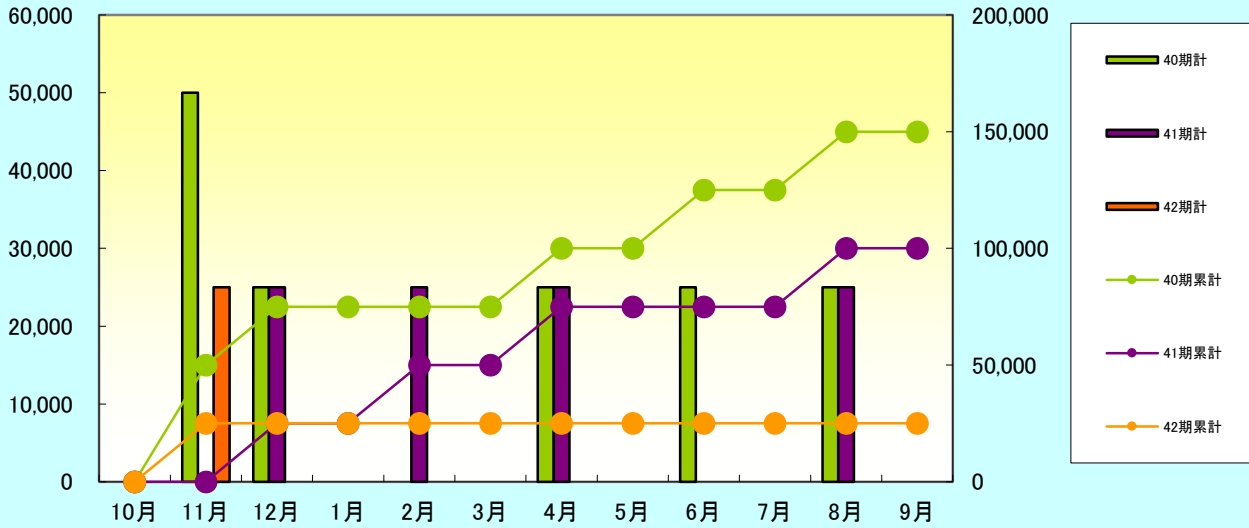
41期 廃棄物処理金額



コピー用紙購入量(SSD/本社)

月次/棒グラフ(枚)

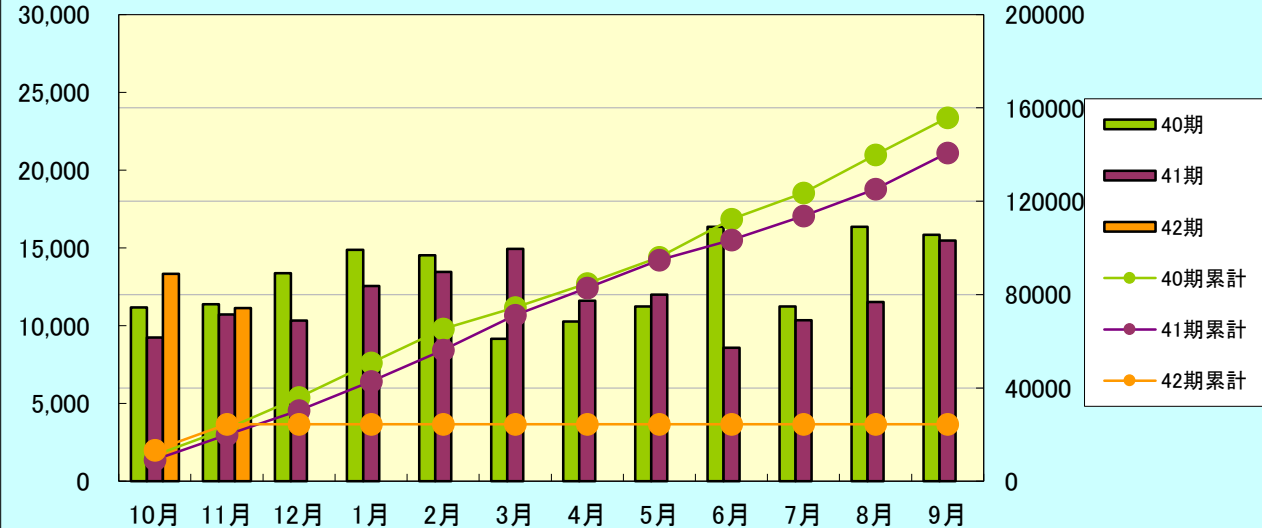
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

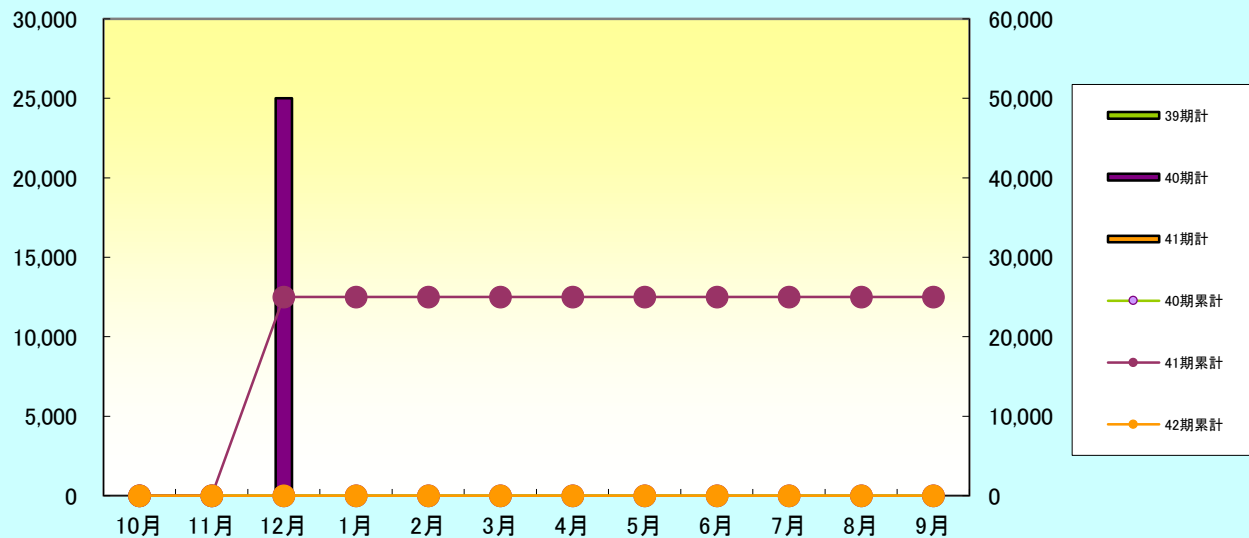
累計/棒折れ線(kwh)



コピー用紙購入量(SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(枚)

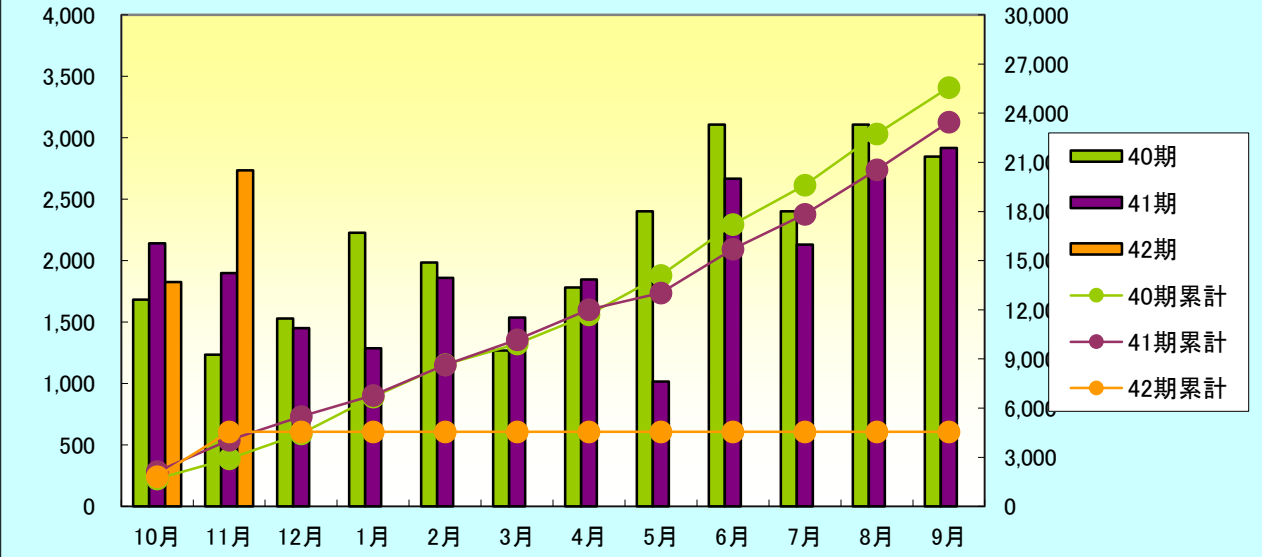
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

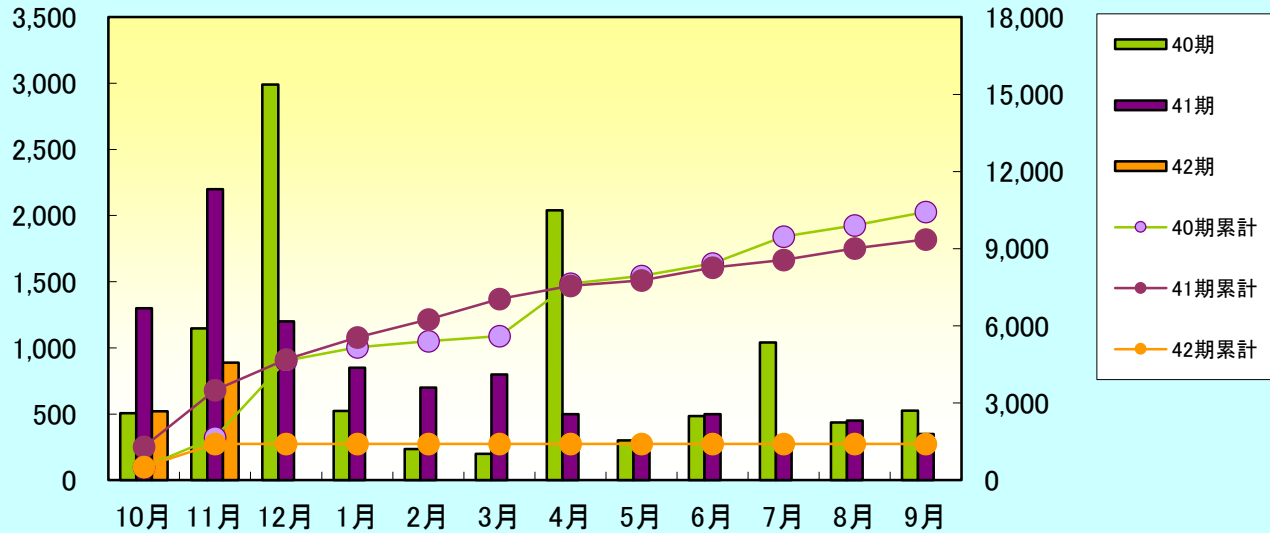
累計/折れ線(kwh)



ペットボトルのキャップ

月次/棒グラフ(個)

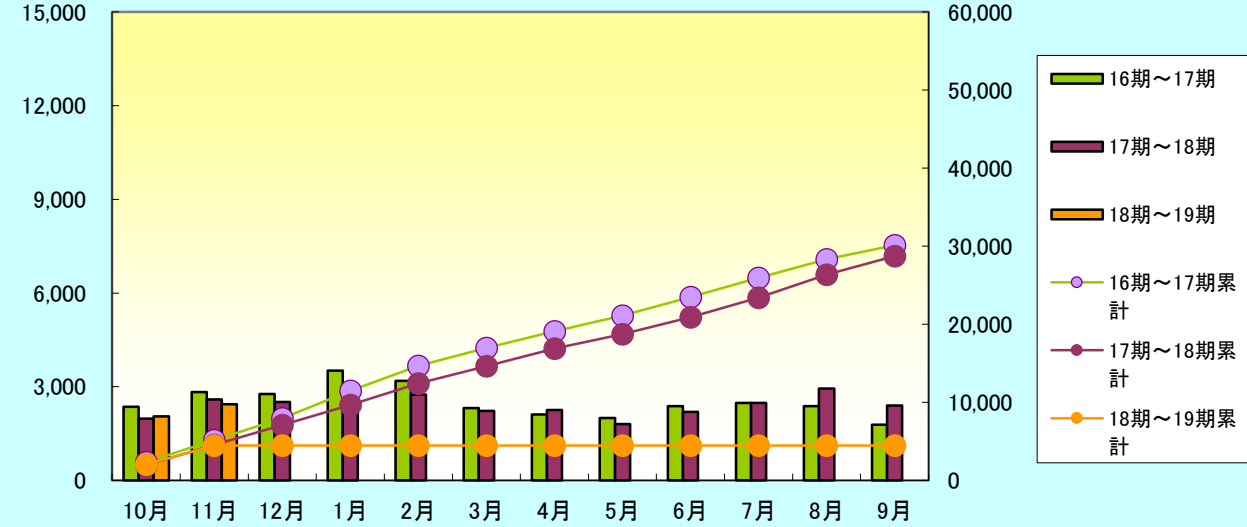
累計/折れ線(個)



電力使用量(SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

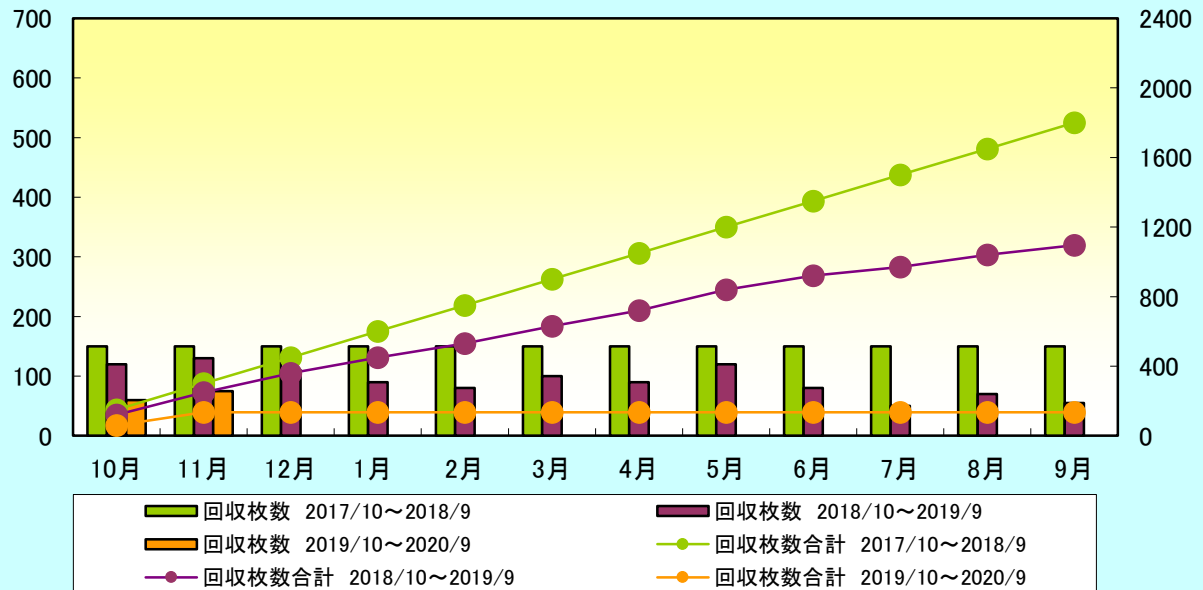
累計/折れ線(kwh)



使用済み切手回収

月次/棒グラフ(枚)

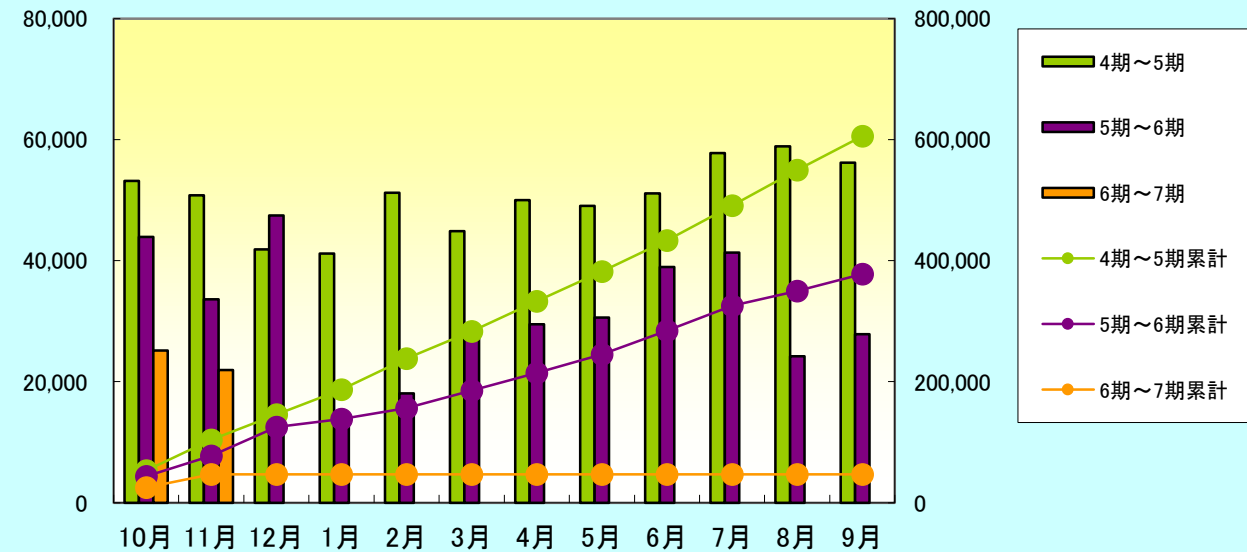
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SKW/CSI工場)

月次/折れ線(kwh)

累計/折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●サンシン大学 ビジネス実務セミナー 『マネジャー養成講座～H.ミンツバーグ著「経営論」を読む～』

サンシングループ代表 石井宏宗氏を講師に、ビジネス実務セミナー「マネジャー養成講座」として、ヘンリー・ミンツバーグ氏の『経営論』を題材に、「マネジャーとは何か」を論理的に熟考し、これまでの業務経験と関連付け、成果を上げる仕事の実現できることを目的として、サンシングループから15名、7チームが参加しました。

講座では、各チームが『経営論』について実務を交えた所見を発表し、講師の石井の講義を受けた後、各自が本講座を通して得た知見・感想を発表しました。

講義は、Skypeを利用してサンシン電気・関西営業所、CEBU SHIN KOWA,INC.と繋ぎ行われました。



今月のTOPICS

●東京都「スポーツ推進企業」、スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」に 3年連続で認定を受けました！

サンシン電気（株）は、2017年から3年連続で、東京都から「スポーツ推進企業」、スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー」の認定を取得しました。

サンシン電気は、社員の健康が健康経営®（※1）に繋がるものと捉え、健康上の理由がある場合を除き、身近な運動としてエレベーターやエスカレーターを利用せず、社内外で階段の利用を推奨・実践しています。また、今年から、サンシン大学にてプロのトレーナーによる「健康筋力養成コース」を毎月開講し、社員のヘルスリテラシーの向上に継続して努めています。

（※1）「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（12月参加人数：延べ6名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 動物介在ボランティア活動実施（ミタスライフ）
- 季節の飾り物をエントランスにディスプレイ：クリスマスツリー

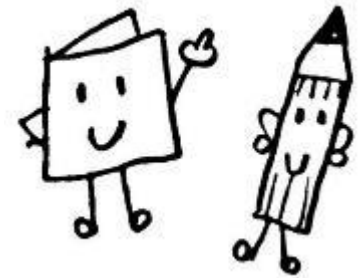


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績5名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 永年勤続者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 毎年インフルエンザワクチンの予防接種費用を会社が補助
- 2ヶ月に1回、マッサージ・リフレクソロジーサービス実施（女性を中心に10名／回参加）、毎月「健康筋力養成コース」開講（6～10名／回参加）
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2019年5月更新）⇒3年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2019（中小規模法人部門）」の認定取得（2019年2月）⇒3年連続！
- 東京都より「令和元年度スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「令和元年度スポーツエールカンパニー」の認定3年連続取得（2017年～2019年）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

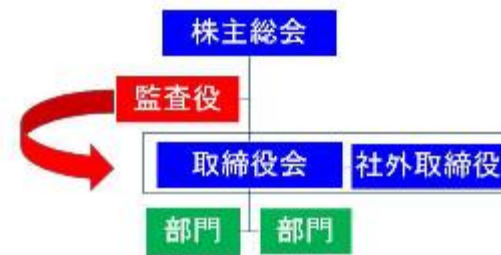
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

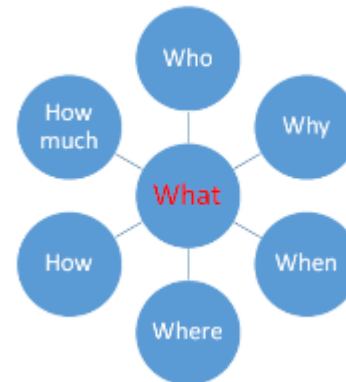
マネジメントシステムの基本構成



マネジメントシステムのレビュー



ビジネスの5W2H

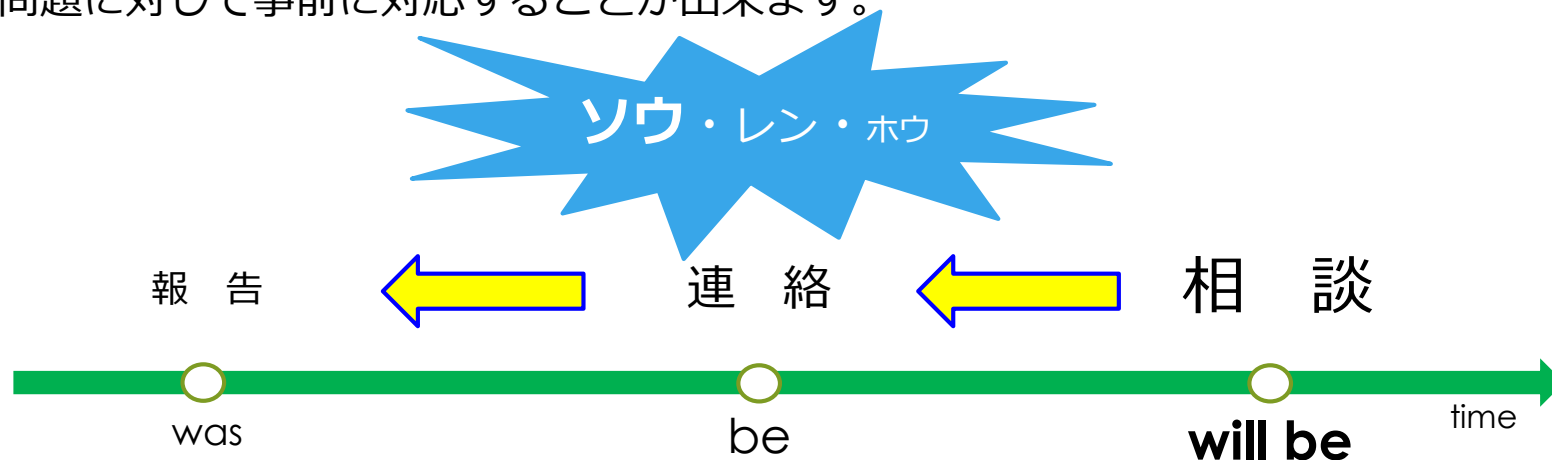


PDCA→P' サイクルの概念



未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、2011年



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

ESGは今や企業活動とは切っても切れない関係になり、また新たなビジネスとしても注目される存在となりました。かつて、ユーザーにとって良いものを作る・売るといったことは、今はユーザーにとって、社会にとって、環境にとって良いものを作る・売る時代と変化してまいりました。サンシングループの新たな経営理念のもと、社会貢献とビジネスが一体化できるよう、本レポートもその一助になればと思います。来年も宜しくお願い致します。